

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2024年1月分)

2024年2月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[選挙法改正に係る与党の動向\(18日～29日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[BH連邦予算の採択\(25日\)](#)

●[百日咳及び麻疹の流行\(25日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[「RSの日」祝賀行事の開催\(9日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[フォン・デア・ライエン欧州委員長等のBH訪問\(22～23日\)](#)

●[国連における対ロシア非難決議に関する動向\(22日\)](#)

●[EUFOR司令官交代式\(31日\)](#)

(2) 二国間関係

●[米軍・BH軍の共同演習実施\(8日\)](#)

●[英国によるBH企業への制裁\(15日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[在つくばBH名誉領事の就任\(22日\)](#)

●[在和歌山BH名誉領事の就任\(24日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報をつとまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●選挙法改正に係る動向(18日～29日)

(1) 与党による動向

与党連合は大統領評議会メンバーの選出方法変更等の政治的な部分の改正も見据えつつ協議を行い、18日にRSのラクタシにおいて行われた与党会合後、党首陣は2月末までに改革の合意ができると述べた。メディアにより報じられたところによると、選挙制度の改革には足きりライン(現在、一律3%)の引き上げ(地方選挙4%、国政選挙5%)、義務投票制及び無投票への罰金導入、非拘束名簿式比例代表制から厳正拘束名簿式への変更、大統領評議会クロアチア系メンバーの選出に関して、クロアチア系多数派地域での得票の条件付け等が含まれている。

その後の29日、サラエボにおいてボシュニャク系を中心とする与党の呼びかけにより、憲法改正等も含む選挙改革に関する会合が開催されたが、野党は全て欠席した。

昨年12月19日にシュミット上級代表は選挙法の技術的改正に係るボン・パワー行使の可能性を示唆していたが、同日、国政与党による選挙改革への努力を評価しつつ、引き続き状況を注視していくと発言し、当面状況を見守る姿勢を示した。

(2) SDAによる選挙法改正案

昨年12月のシュミット上級代表の発言を受け、SDA提案の選挙法改正案が議会で審議されたが、31日のBH上院会合において緊急採択プロセスでの議論を取りやめ、通常の採択プロセスに乗せることが決定したため、今回のセッションでの採択には至らず(廃案とはなっていない)。これを受け、SDAはシュミット上級代表によるボン・パワーの行使を要請した。

●EU加盟に係る重要法案の採択(31日)

31日のBH上院セッションにて、高等司法検察評議会(HJPC)法改正案が採択されたほか、公務員法改正案が第一読会にて可決された。他方、資金洗浄防止法については、上院全体の過半数の賛成は得られたものの、セルビア系の反対によりエンティティ票(法案の採択には、全体の過半数+各エンティティの3分の1以上の賛成が必要)が不足し、議長団による調整が行われることとなった。調整に成功すれば採択となり、失敗すればBH下院から通常の採択プロセスで再度議論を行う必要がある。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH連邦予算の採択(25日)

25日、BH連邦上院において今年度の連邦予算案が採択された。総額は約74億KMとなり、過去最高額。特に農業、年金、傷痍軍人への支援、出生率向上、文化プロジェクト等に対する割り当て等が前年比で増額となっている。

●百日咳及び麻疹の流行(25日)

BH連邦のトゥズラ・カントンでは特に子供の間で百日咳及び麻疹が増加傾向にあり、サラエボ・カントンでも症例が報告されている。WHOサラエボ事務所は麻疹の流行を受け、ワクチン接種を呼び掛けると共に、BH保健当局に対して接種状況の調査と防疫措置を講じるよう求めた。BHにおけるMMRワクチンの接種率は6割程度に留まっており、感染拡大を防ぐために必要な水準に達していない。

イ スルブスカ共和国(RS)

●「RSの日」祝賀行事の開催(9日)

9日、RS各地にて「RSの日」(BH憲法裁判所が複数回違憲判決を下したもの)祝賀行事

が開催され、メインとなる行進等の行事がバニャ・ルカにて開催された。行事にはセルビアからオルリッチ国民議会議長、ブチェビッチ国防大臣等が出席したほか、オルバーン・ハンガリー首相(出席はなし)に対するRS最高勲章の授与が決定された。

これに対し、当地米国大は「RSの日」の祝賀を特定宗教の祝日と結びつけることは違憲であり、憲法裁判所判決の不履行は犯罪であるとして厳しく批判。反デイトンの行為には相応の対応を取ると表明した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●フォン・デア・ライエン欧州委員長等のBH訪問(22～23日)

22～23日、フォン・デア・ライエン欧州委員長が、ルッテ蘭首相及びプレンコビッチ・クロアチア首相とともにBHを訪問し、BH大統領評議会3メンバー、クリシュト閣僚評議会議長、シュミット上級代表等と会談した。

フォン・デア・ライエン欧州委員長はBHがEU加盟に向けて成し遂げている成果を評価する一方、特に法の支配等の分野ではさらなる努力が必要と指摘した。

また、プレンコビッチ首相は大統領評議会メンバーとの会談を欠席し、その後の日程より合流した。会見において同首相は、コムシッチ大統領評議会クロアチア系メンバーがBHのクロアチア系住民の意思により選ばれていないとして、同メンバーの正当性を受け入れないというクロアチア政府の立場を強調した。

●国連における対ロシア非難決議に関する動向(22日)

22日、ウクライナ情勢に関する国連安保理会合に先立ち、米、英、日等の47か国及びE

Uは、ロシアによるウクライナ侵略、及びイラン、ベラルーシ、北朝鮮によるロシアへの武器供与について共同の非難声明を発出した。右声明にはBHも加わった一方、セルビア及びロシアは加わらなかった。

ドディックRS大統領及びツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーは、BHの外交政策の決定には大統領評議会における3民族のコンセンサスが必要であるが、今般の非難声明への賛成にはそれがなかったとして、ラグムジャ駐国連BH大使を批判した。

●EUFOR司令官交代式(31日)

31日、EUFOR司令官の交代式が実施され、新たにシュティツツ司令官(ハンガリー)が就任した。就任式にはノヴァーク・ハンガリー大統領及びサライ＝ボブロヴニツキ国防相も出席した。

(2) 二国間関係

●米軍・BH軍共同演習の実施(8日)

8日、「RSの日」直前に、トウズラ及びブルチュコ特別区においてBH軍と米軍の統合末端攻撃統制官(JTAC)部隊による共同演習が実施され、F-16戦闘機による試験飛行が行われた。本演習は、西バルカンの平和と安全保障への貢献及び、RSの分離主義的動向が高まる中、米国によるBHの領土一体性へのコミットメントを示すための協力の一環として行われたもの。これを受け、ドディックRS大統領は、米国がRSに対する「ハイブリッド戦争」を主導しているとして強く批判した。

●英国によるRS企業への制裁(15日)

15日、英国外務・英連邦・開発省は、「RSの日」祝賀行事の企画に関わり、BHの憲法秩序及び平和と安定を脅かしたとして、マーケティング企業である Mania 社への経済制裁を発表した。

●チェコ欧州担当大臣のBH訪問(25日)

25日、ドヴォジャーク・チェコ欧州担当大臣がBHを訪問し、ベチロビッチBH大統領評議会メンバー及びコナコビッチ外相と会談した。ドヴォジャーク大臣は、チェコとしてBHの主権と領土一体性を尊重し、BHには現在、分離主義的動向等の憂慮すべき動向も存在していると述べつつ、引き続きBHのEU加盟を支持していくと強調した。

●ハンガリー大統領及び閣僚等のBH訪問(26日～31日)

26日、シーヤールト・ハンガリー外務貿易大臣がBHを訪問し、コナコビッチ外相及びドディックRS大統領と会談した。外相会談において、ハンガリー外務貿易省からBH外務省への支援に係るアクション・プランへの署名が実施された。

その後、30日～31日には、ノヴァーク・ハンガリー大統領及びサライ＝ボプロヴニツキ同国防相がEUFOR司令官交代式への出席のためBHを訪問。ノヴァーク大統領はBH大統領評議会メンバー、クリシュトBH閣僚評議会議長及びシュミット上級代表とそれぞれ会談したほか、両国国防相による会談も実施された。

(3)日・BH関係

●在つくばBH名誉領事の就任(22日)

22日、茨城県つくば市の株式会社ジェイ・アイ・エム社内に在つくばボスニア・ヘルツェゴビナ名誉領事館が開設され、池田時浩代表取締役が名誉領事に就任した。池田代表取締役の就任式は駐日BH大使館にて執り行われ、ブルジッチBH外務省大臣官房長より任命書が手交された。

●在和歌山BH名誉領事の就任(24日)

24日、在和歌山BH名誉領事館が開設され、長井保夫・株式会社プラム食品会長(同県上富田町)が名誉領事に就任した。和歌山県ではすさみ町とイエゼロ市の姉妹都市協定が締結されるなどBHとの交流が活発に実施されており、両国関係の発展に対する長井会長の多大な貢献に対し、今般の名誉領事への任命が決定したものの。

名誉領事任命式は和歌山市内の名誉領事館にて実施され、ブルジッチBH外務省大臣官房長より任命書が授与された。

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2023年12月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比2.0%のマイナス。また、前年同月比12.6%のマイナス。

●雇用／失業率

2023年11月の失業者登録数は34万4666人(うち女性20万1,579人)で、前月比で0.4%マイナス、前年同月比で2.8%マイナス。

●平均給与

2023年11月の平均給与(手取り)は1,304KMで、前年同月比で11%のプラス。

●消費者物価指数

2023年12月の消費者物価指数は前月比で0.2%のマイナス。また、前年同月比で平均2.2%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.2%のプラス。

●貿易収支

2023年1月～12月のBHからの輸出総額は167億KM(前年同期比7.21%減)、BHへの輸入総額は277.68億KM(前年同期比3%減)。貿易収支は116.8億KMの赤字。

(2) 経済政策・公共事業

●BH公共放送の財政難(12日)

12月31日、BH公共放送(BHRT)と受信料の回収を代行するBH電力公社(Elektroprivreda)との契約が切れ、その後更新が行われなかった。1月の電力公社の請求書には、従来含まれていた受信料が含まれておらず、BHRTの収入源が途絶える形となっている。同社をめぐっては、セルビア系及びクロアチア系による受信料の未払い等による財政難が慢性化し、2022年4月には一時的に口座が凍結される事態にも陥った。1月12日、

BHRT労働組合はBH各レベルの政府に対して、受信料回収代行契約に至急署名するよう呼び掛けた。

(3) 経済協力

●サラエボ市新型トラムの試験走行(31日)

31日深夜、EBRDの融資により調達されたサラエボ市新型トラム(スイス・シュタッドラー社製)の試験走行が実施された。今後、さらに各種の試験を実施後、実際の運用を開始する予定。

(4) 民間セクター

●ライフアイゼン銀行による電気自動車の充電ステーション設置(16日)

ライフアイゼン銀行(本社:オーストリア)は、二酸化炭素排出量削減及び大気汚染防止のための取り組みの一環として、サラエボ及びモスタルの本店前に電気自動車の充電ステーションを設置した。ステーションは利用客のみならず全市民に開放され、使用は無料。消費者に対して電気自動車の購入を促す狙いがある。

ライフアイゼン銀行は環境のための取り組みを多く導入しており、自社へのソーラーパネルの設置、社用車への電気自動車の導入、市内へのリサイクルマシーン設置等を実施している。